

救急基金だより

1分1秒を争う、いのちのために
救急基金

- 救急基金の歩み
- 寄附金募集事例紹介
 - ・飯田広域消防本部
 - ・中和広域消防本部
- 皆様からの寄付
- 平成13年度救急基金会計の決算
- 平成14年度救急基金会計の予算



救急基金は、応急手当の普及など救急の振興のために活用されます。

財団法人 救急振興財団

救急基金の歩み

応急手当の普及へ向けて

救急救命士制度の発足とともに救急救命士の養成を目的として平成3年5月に設立された財団法人救急振興財団は、設立当初より7,235名の救急救命士を誕生させるなど、救急体制の充実及び応急処置による心肺停止傷病者の救命効果の向上に大きく貢献しています。

しかし、なお一層の救命効果の向上には救急救命士の現場到着前の一般住民による応急手当が重要であり、また、そのような応急手当の習得の要望も高まっています。

そこで、こうした課題に対処するために、財団法人救急振興財団では平成4年より、皆様から寄せられた寄附金を基金として積立て、その運用益で応急手当講習会で使用

する資機材の寄贈や応急手当の普及など、救急の振興に役立つ事業を行っています。

事業の概要

<平成5年度～平成8年度>

住民の要請に応じて消防機関が派遣する
応急手当指導員を養成する為の講習会の
開催

<平成9年度>

寄附金募集用のポスター及び救急基金箱
の作製

<平成10年度～平成14年度予定>

消防機関が住民向けに行う応急手当講習
会で使用する資器材の寄贈

寄附金募集事例紹介

飯田広域消防本部

東には南アルプス、西には中央アルプスが連なり、そこに挟まれ全国屈指の急流を誇る天竜川が流れる、自然豊かな長野県南信州。そこを成す1市3町14カ村、実に1,929km²にもわたる広大な地域の人々の安全を、日々守り続けているのが飯田広域消防本部です。天竜川の河岸段丘地域が中心部として発展する一方で、管内の74%は山林地帯。山裾や谷間をぬって集落が点在するという厳しい地理的条件を抱えるとともに、年々増加の一途をたどる過疎化・高齢化は、深刻な問題となってきています。

こうしたエリア・時代の要請から、消防

そして住民の方々の、バイスタンダーとして担う応急手当への意識の高さは、目をみはるほどです。平成13年度における救急救命講習の受講者は、普通・上級あわせて1,413名。その他講習を含めると、3,000名を優に超えています。受講者は、中学生から高齢者までの幅広い年齢層にわたり、特筆すべきは、ホームヘルパーのカリキュラムに救急救命講習会を組み込んだり、管内の小中学校の先生を対象とした応急手当指導員の“伝達員”の講習会を実施し、先生方からPTA・父兄へ応急手当の大切さを伝達するといった、様々な方法により救急救命講習会の普及啓発に励んでおられる点です。このような働きがまた実を結び、救命効果の向上につながっているといえましょう。

この度、応急手当の普及啓発に役立てていただく為、訓練用の人形、応急手当テキスト、フェイスシールドを寄贈させていただきました。消防・住民とが一体となった応急手当の普及活動に多大な感謝をするとともに、熱心な取り組みに非常に心強く思っております。今後のますますのご活躍、ご発展を心よりお祈りいたします。



寄附金募集事例紹介

中和広域消防本部

難波と明日香を結ぶ交通の要衝として栄えた大和高田市、我が国最初の都城藤原京があった橿原市、ツツジの名所葛城山麓の御所市、武家屋敷などの史跡の残る高取町、日本建国期の数々のドラマを秘めた明日香村の3市1町1村をかかえる中和広域消防本部は、奈良県のほぼ中央部に位置し人口約25万人、面積167km²を擁する自然と歴史の調和のとれたところにあります。歴史的遺産を数多く有していることから、防火にはどこよりも力を入れている地域です。

応急手当普及啓発活動にも熱心で、管内4署合わせて普及救命講習等を年間約100回実施しています。熱心な住民はもとより、職員の日々の普及活動にも敬服する次第です。参加者の中で一番多い年齢層は40～50歳代の女性ですが、高校の授業の一環として普通救命講習を受講する学校も多く、幅広い年齢層からの高い意識が伺えます。救急基金の寄附金はそのような住民や来庁者からも寄せられ



ますが、特に職員の方を中心に寄附を寄せていただきました。署内に設置された「救急基金箱」のほかに、職員手づくりの「救急基金の募集箱」が設置してあり、積極的に寄附をしていただいています。救急フェア等で住民との連携を深めつつ応急手当普及啓発に力を注いで下さっていることに感謝し、今後の益々の発展に期待したいと思います。

皆様からの寄附

皆様からいただいている寄附金は、応急手当普及啓発活動に役立てておりますが、その寄附の中には、右のセントバーナード犬の黄色い救急基金箱に入れていただく他に、救急基金の主旨に賛同して、個人的に送金していただいている方や、イベントの場等に救急基金箱を設置していただき、その収益金の一部や入場料、中にはイベントに参加しているアーティストがCD等の売上金を寄附して下さるといふように、積極的に集めていただいている例もございます。また、実際に急病人として、救急車で運ばれて一命をとりとめた方が、応急手当及び救急救命の大切さ、感謝の気持ちから基金に寄付していただいた例もございました。皆様からいただいた寄附金については、救急基金として積立て、その運用益を活用して、心肺蘇生訓練用シミュレーター、応急手当等講習テキスト等を消防機関に交付し、住民に対する応急手当の普及啓発活動を通じて、広く住民に還元しております。皆様の日頃からの寄付につきまして、この場を借りまして感謝申し上げます。



*過去の救急基金だより（NO. 1～NO. 3）につきましては、救急振興財団のホームページ（<http://www.fasd.or.jp>）の④救急基金の項目の中に掲載してございます。

■平成13年度救急基金会計の決算（単位：千円）

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
I 収入の部			
1 寄附金収入	2,000	1,925	75
2 救急基金運用収入	620	291	329
3 雑収入	50	0	50
当期収入合計 (A)	2,670	2,216	454
前期繰越収支差額	977	979	△2
収入合計 (B)	3,647	3,195	452
II 支出の部			
1 管理費	40	8	32
2 事業費	1,334	577	757
3 救急基金積立支出	2,000	1,925	75
当期支出合計 (C)	3,374	2,510	864
当期収支差額 (A) - (C)	△704	△294	△410
次期繰越収支差額 (B) - (C)	273	685	△412
※平成12年度末救急基金残高		162,350,728円	

■平成14年度救急基金会計の予算（単位：千円）

科 目	予 算 額	前年度予算	増 減
I 収入の部			
1 寄附金収入	2,000	2,000	0
2 救急基金運用収入	695	620	75
3 雑収入	1	50	△49
当期収入合計 (A)	2,696	2,670	26
前期繰越収支差額	641	977	△336
収入合計 (B)	3,337	3,647	△310
II 支出の部			
1 管理費	40	40	0
2 事業費	966	1,334	△368
3 救急基金積立支出	2,000	2,000	0
当期支出合計 (C)	3,006	3,374	△368
当期収支差額 (A) - (C)	△310	△704	394
次期繰越収支差額 (B) - (C)	331	273	58

皆様からの寄附金は、消防本部等に設置された救急基金箱によりお寄せいただいております。救急基金箱に関するお問い合わせは下記あてにお願いいたします。

救急基金だよりNo.4 [編集・発行] 財団法人救急振興財団事務局総務課

〒192-0364 東京都八王子市南大沢4-6

☎ 0426-75-9931

FAX 0426-75-9050